

2015年モデル

# LANG L

ラング L

取扱い説明書

Ver 1.0

安全にお使いいただくため  
必ずはじめにお読みください

販売会社

製造元/株式会社アクセス

〒400-0048 山梨県甲府市貢川本町5-15




お問合せは

フリーダイヤル.0800-800-5224

平日9:00~18:00までにお問合せください。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。  
取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。  
この取扱説明書をよくお読みいただき、  
いつまでも安全・快適にご使用ください。

・この取扱説明書の中で使用されている記号は、次のようになっています。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性が想定される内容を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある内容、または物的損害の発生が予想される内容を示しています。
 アドバイス	ご使用に際して守っていただきたいこと、および知っておくと便利なことを示しています。

- ・この取扱説明書は、よくお読みになった後も大切に保管してください。
- ・当製品をおゆずりになる場合、次に所有されるかたのためにこの取扱説明書をお渡しください。
- ・オプションパーツなど取り付けられた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- ・仕様などの変更により、この取扱説明書の内容やイラストと実際の車輛が一致しない場合があります。  
あらかじめご了承ください。

## ・ 運転の前に

注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

OLANG L (ラングL) は、第1種原動機付自転車として設計されています。ナンバーを取得し、自賠責保険に加入する事で、公道を走行出来ます。公道で走行する場合、第1種原動機付自転車の運転免許証が必要です。



### 注 意

- ・ LANG Lを運転するには、道路交通法では原付の運転免許が必要になります。原付スクーターとしての交通ルールやマナーを守ってください。
- ・ 交差点等で進路を変更する場合は、徐行して安全を確認してから進路変更をしてください。
- ・ 車道を走行して下さい。センターラインがないところでは、対向車に注意してください。
- ・ 信号機のある交差点では、道路交通法による2段階右折をしてください。
- ・ 混雑している場所や、人通りの多い場所での走行は避けるようにしてください。
- ・ 飲酒時や過労時は、運転しないでください。
- ・ 夜間運転はできるかぎり避けてください。
- ・ 道路標識や信号を守ってください。

## ・ 運転の前に

○まずは運転に慣れましょう。



### アドバイス

- ・ 運転に慣れるまでは、交通の少ない安全な広い場所で練習し、発進、停止、旋回などの感覚をつかんでください。
- ・ 慣れるまでは、アクセルグリップを控えめに回し「低速」状態で練習してください。
- ・ 公園など公共の場で練習する場合には、その場所のルールを守り、周りの人や物にぶつからないように注意してください。

○はじめて道路に出る時は。



### 注意

- ・ 十分な練習後、はじめて道路に出るときは、朝晩の混雑時間を避けて交通量の少ない時間に走行してください。

必 読 必ずお読み下さい

## ・ 運転の前に

○当車輛は 1 人乗りです。



### 警 告

- ・ LANG Lは 1 人乗り専用車輛です。  
2 人乗り（子供も含む）はしないでください。
- ・ 遊具等として使用しないでください。

○荷物のけん引はしないでください。



### 注 意

- ・ 荷物のけん引はできません。予期せぬ事故、故障、破損の原因となります。
- ・ 最大乗車重量は、運転者の体重と積載物を合わせて 8 5 kg です。この重量を超えて使用しないでください。
- ・ リアの荷台の積載限度は 1 0 kg です。積載限度を超えての使用は破損の原因となります。

・ 運転の前に

○日常点検・定期点検をしっかりとしましょう。



注 意

- ・ 走行する前には、毎回必ず日常点検を行いましょ。走行中の予期せぬトラブルを回避する為の大切な作業です。  
(別載 6. モーターとコントローラ・機械のメンテナンス参照)
- ・ 定期的にモーター駆動部やバッテリー一部など日常点検では目の届きにくい部分もしっかり点検・整備を行いましょ。  
(詳しくは販売店にご相談ください。)

○携帯電話の使用について。



注 意

- ・ 走行中は、携帯電話などを使用しないでください。使用する時は、安全な場所に停止し、車輦本体電源スイッチを切ってください。

## ・ 運転時の注意

○次のような場所での運転はやめましょう。



### 注 意

- ・ 次のような場所や状況では、転倒や故障の原因となりますので、走行を避けてください。  
〔砂利道・ぬかるんだ道・雪道・凍結した道・水たまり・夜間・降雨・降雪・濃霧・強風時・凸凹の激しい道など〕
- ・ 次のような場所や状況では、接触や衝突の恐れがありますので、走行を避け安全確認や脱輪予防をしてください。  
〔混雑している場所・交通量の多い道路・横断歩道・狭い道・防護柵のない側溝や路肩付近・踏切など〕



### 警 告

- ・ 脱輪などで動けなくなった場合には、アクセル操作による脱出は行なわず周囲にいる人の助けを借りて脱出してください。  
無理にアクセル操作をすると、事故、故障の原因になります。

必 読 必ずお読み下さい

## ・使用上の注意

### ○バッテリーについて



注 意

- ・ バッテリーの周囲温度が $-10^{\circ}\text{C}$ 以下、または $40^{\circ}\text{C}$ 以上で走行や保管をしないでください。また、バッテリーの周囲温度が $0^{\circ}\text{C}$ 以上から $30^{\circ}\text{C}$ 以下で充電してください。これらの温度範囲外では、凍結や過熱をおこし、破損や変形、早期劣化の原因となります。

### ○修理・改造について



注 意

- ・ 修理や改造が必要な場合は、購入店または代理店にご相談ください。不適切な改造は安全性が低下して、事故や故障の原因となります。また、改造した場合は保証が得られない場合があります。

### ○純正部品について

- ・ 交換、修理などの際の部品交換時は、メーカー純正部品を使用してください。



アドバイス

- ・ 部品の購入、交換は購入店または販売代理店にご相談ください。



# 1.各部の説明



Fig1:メータパネル



Fig2:メインキー



Fig3:左ハンドル周り



Fig4:右ハンドル周り



Fig5:前輪周り



Fig6:メインスイッチ(ヘルメットボックス)



Fig7:充電ソケット

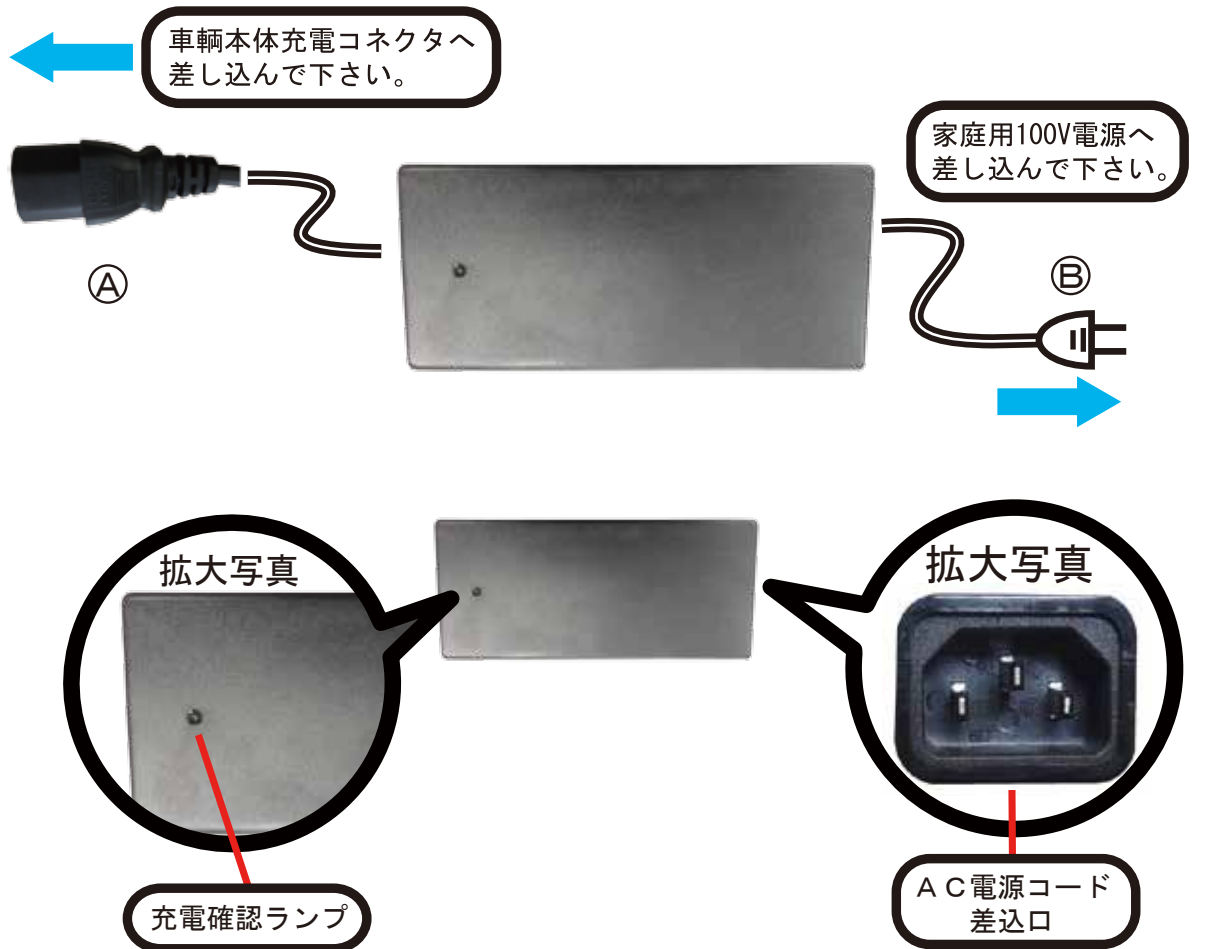


Fig8:後輪周り



# 取り扱い方法

## ・ 充電方法



- ①メインブレーカースイッチ (Fig6) を“ON”にしてください。
- ② Aの充電コネクタを車両側充電コネクタへしっかりと差し込みます。
- ③ 家庭用電源にBのコンセントをしっかりと差し込みます。
- ④ 充電中は充電確認ランプが“赤”色に点灯し、充電が完了すると、“緑”色に変化します。

## 1. はじめに

当社で輸入販売している電動スクーターは、ヘッドライト・ブレーキ・フレーム・充電器などを、日本の道路運行車両法・道路交通法・電気用品安全法に適合または準拠するよう設計変更を行い、日本向けに中国国内にて製造し、日本国内で最終調整と走行テストをJISの品質管理基準に基づき行った後出荷されます。なお、バッテリーはリチウムバッテリーを採用していますので、氷点下10℃でも通常の鉛酸バッテリーと比べて3倍近い能力を発生します。フレームについても十分な強度が得られるよう肉厚の材料を使用しています。

## 2. 注意事項

- LANG Lは、新しいバッテリーなら、一回の充電で40km～50km走行が可能です。
- 毎回の走行でバッテリーを使い果たすとバッテリーの寿命が短くなります。また、充電が十分にされていなかったり、走行後、充電しないで長時間放置することは避けて下さい。定期的に充電をすることが必要です。乗らなくても一般的に30日に1回は必要です。
- 電動スクーターは頻繁にブレーキをかけたり、急な坂道や向かい風、または過度な重量が加わると発動機の電流が大きくなり、バッテリーの放電も大きくなってしまいます。バッテリーの寿命にも影響を与えます。
- 一般の鉛酸バッテリーは気温の影響を受けやすく、気温が0℃以下の場合、バッテリーの容量は1/3以下に減りますが、LANG Lはリチウムバッテリーを使用しています。このバッテリーは-10℃でも通常の90%の容量を保持します。しかしながら、寒い日には一回の充電で走れる距離は短くなります。気温が上昇すると性能は正常に戻ります。
- 夏期に電動スクーターを長時間日に当てることは避けて下さい。バッテリーの温度が60℃以上になると正常な走行に影響を与えることがあります。
- 本電動スクーターを寒いところから急に熱いところに移すと電子部品に結露が発生することがあります。結露を除去してから使用して下さい。
- 本スクーターは雨や雪の降る天気でも走行することができます。しかし、車輪のハブが浸かる水位（水深10cm）の中では走行しないで下さい。ショートしたり、電子部品が壊れることがあります。

## 3. 乗る前の準備と操作の順序

- タイヤには十分(2.5K)に空気を入れて下さい。タイヤの空気圧が低いと摩擦抵抗が大きくなるため走行距離が短くなり、バッテリーも劣化しやすくなります。

- ・バッテリーは、本取扱説明書に従って十分に充電して下さい。充電が不十分な場合、走行距離だけでなく、バッテリーの寿命にも大きく影響を与えます。
- ・メインキー (Fig2) を回してONの位置にして下さい。メーターの表示板にバッテリーの電圧を示す表示があります。(バッテリーの充電が十分でないと、メーター (Fig1) の電圧は、62V以上を表示しません。56V以下のときは、バッテリーの容量が少ないか、バッテリーが劣化して十分な容量を確保できないことを示します)。**54V以下になるとアクセルを回してもモーターが回りません。**これは故障ではありませんので、すみやかに充電して下さい。
- ・使用後はすみやかにバッテリーを充電して下さい。
- ・ハンドルを握って右手のアクセルレバー (Fig4) を回すと走行します。タイヤがスムーズに回ること、モーターから異音がないことを確認して下さい。アクセルを戻すと、自動的に電源が切れます。
- ・前輪、後輪のハンドブレーキをかけるとモーターの電気回路が切れます。走行中に同時あるいはどちらかのブレーキをかけると、モーターの電源が切れます。このとき、アクセルを回してもモーターが起動しなければ、ブレーキによる電気回路の遮断機能は正常です。
- ・走行時には、アクセルレバーを適切だと思えるスピードまで回して下さい。ブレーキをかける時には、アクセルレバーも同時に戻して下さい。ゆっくり発進するとバッテリーの消費が少なくて済みます。
- ・バッテリーの消耗を防ぐためだけでなく、防犯のためにも走行後はメインブレーカースイッチ (Fig6) を切り、キーハンドルロック (Fig2) の位置までキーを回して抜いて下さい。



## アドバイス

- ・バッテリー残量メーターはあくまでも目安です。ご使用後は距離に拘らず毎回満充電状態にしておきましょう。
- ・バッテリーの減りが早くなってきましたら、バッテリー交換の時期です。購入店或いはメーカーにお問い合わせください。

## 4. 主な電気部品の機能

- ・ブラシレスモーター組込ホイール (Fig8) : 高性能の希土類永久磁性材料を使っている外部の回転子から、ホイールを通してタイヤに駆動を伝えます。モーターとホイールは一体になっていて (モーター組込ホイール)、シフトチェンジギアを使わない構造になっているので、高効率、長寿命、低騒音などの特徴があります。

- ・コントロール装置は最新の電子回路技術を使っていて、各電装部品のコントロールセンターとなっています。このコントローラーには、モーターの発電、バッテリーの電圧降下保護、過電流保護、ブレーキ操作時の電源OFFなどの機能があります。また電子式のアクセルを使っているため、スムーズなスピード調整も行うことができます。
- ・バッテリーは本電動スクーター専用のバッテリーを使っています。また、このバッテリーは多くの日本向けバッテリーを設計した技術により作られているため、体積が小さく軽量で、衝撃に強いなどの特徴があります。さらに300回以上繰り返し充電（使用状況により増減します）に耐えられます。

## 5. 充電方法

- ・走行する際は（メインスイッチをONにした後）、十分に充電されているかどうかを確認して下さい（電圧が62V以上）。十分でない場合は、十分に充電してから走行を始めて下さい。
- ・充電器は弊社のセットした、あるいは指定（60Vリチウムバッテリー用5Aの過充電防止機能付）した充電器を使って下さい。バッテリーと充電器が合わないと火災や故障を起こす場合があります。
- ・使用する前にコンセントの電圧が単相100V～220Vであるかどうか確認して下さい。
- ・充電ソケット（Fig7）がついていますので、バッテリーはスクーターにつけたまま充電してください。
- ・充電する際には、**充電器の赤いLEDがついていれば正常に充電できている**ことを示します。もし緑のLEDがついている場合は、充電が終わったか、あるいは充電器のコンセントがきちんと挿せていなかったか、または接触不良を起こしている場合があります。
- ・充電が終わりましたら、電源側のコンセントを抜いてから、バッテリー側のコンセントを抜いて下さい。充電する際、充電器のLEDは電源が入ってから数秒後につきます。充電終了後は、電源が切れてから数秒後に消えます。
- ・バッテリーは、使用後すぐに充電してください。十分に充電されていない状態で使用すると、バッテリーの寿命に大きく影響を与えます。またバッテリーは逆さや横向きにしないで下さい。充電器は電気製品なので、乾燥した、風通しのよい所に保管して下さい。また、充電する時には熱の発散ができなくなりますので、充電器の上に物を置いたり、ヘルメットボックスに入れたりしないで下さい。
- ・充電器を、長時間コンセントに挿した状態で放置しないで下さい。充電器の寿命短縮と火災の原因になります。充電完了後も微量な電流が流れています。

## 6. モーターとコントローラー・機械のメンテナンス

- ・モーターとコントローラーは電動スクーターの重要な部品なので、急な坂道を連続して走行しないで下さい。
- ・走行時に、頻繁にブレーキをかけたり発進させたりすると、スクーターの総走行距離に影響します。ブレーキをかける際には、アクセルをできるだけ前方で戻し、モーターの回生ブレーキを利用してから停止して下さい。
- ・乗車前には、タイヤの空気が十分に入っているかどうかを確認して下さい。また、ハンドルの方向はどうか、ブレーキレバーを握ってブレーキが効いているか、ブレーキランプは点灯するか、メータパネルのバッテリー電圧は十分にあるか、確認してから乗車して下さい。
- ・平らでない場所や、急勾配の坂を上る際には、途中休憩してバッテリーを休ませて下さい。
- ・電動スクーターの積載重量は85kgなので、二人乗りや重すぎる荷物は載せないで下さい。モーターやコントロール装置、バッテリーの寿命に影響を与えます。
- ・電動スクーターは耐候性能を持っていますが、長時間直射日光や雨にさらさないようにして下さい。
- ・梅雨時は特にモーターとコントロール装置に水が入らないよう気をつけて下さい。
- ・通気性の悪い布などで、コントロール装置を包まないで下さい。コントロール装置の放熱に影響を与える可能性があります。

## 7. 維持とケア

- ・前後の車軸、ハンドルなど動く部品には特に注意を払い、潤滑油を塗ったりすることで長期間ベストコンディションでご利用いただけます。
- ・前後のブレーキが効いているかどうかを常に確認して下さい。また、他の操作する部品もきちんと機能しているか確認して下さい。タイヤの空気も十分であるか確認して下さい。
- ・解決できない問題が起きた場合には、専門技術者に修理をしてもらって下さい。むやみに自分で解体したりしないで下さい。

## 一般的な故障現象の原因と解決方法

故障の現象	故障の原因	解決方法
充電器が充電できない。	電源LEDが点灯しない。	電源を接続して下さい(→P10)
	充電器のコンセントと電源のコンセントの接触が悪い。	コンセントをしっかりと挿して下さい(→P10)
一回の充電で走行できる距離が少ない。	道路の状況が悪い、積載量が多すぎる、坂道が多い、気温が低い、頻繁にブレーキをかける。	バイクに負荷がかかる使用状況では、バッテリーの消費は通常より多くなります。荷物は規定重量内で積載して下さい。
	タイヤの気圧が低すぎる。	十分に空気を入れて下さい(2.5~3.0K)(→P9 Fig5,8)
	充電が十分でない。	十分に充電して下さい(→P10)
アクセルを回しても、モーターが起動しない、速度が遅すぎる。	メインブレーカーがOFFになっている。	座席シートを開けてメインブレーカーをONにして下さい。(→P9 Fig6)
	キルスイッチがON(右側の「-」)になっている。	キルスイッチをOFF(左側の「○」)にして下さい(→P9 Fig4)
	サイドスタンドが立っている。	サイドスタンドを走行時の定位置まで戻して下さい(→P8)
	充電が十分でない。	十分に充電して下さい(→P10)
その他の故障	故障の原因が分からず、解決できなかったり、配線等内部が損傷している場合。	専門技術者(自動車整備士)に修理を依頼して下さい。もしくは販売店にお問合せ下さい。